
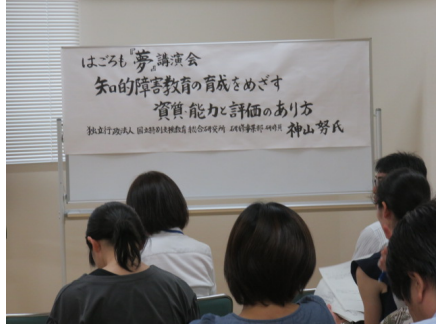


# はごろも「夢」講演会 報告書

令和元年 8月5日

実施校名・団体名	静岡大学教育学部附属特別支援学校	代表者氏名	松永 泰弘
実施日時	令和元年 7月 26日 (金) 13時 30分～ 15時 30分		
開催会場	名称	大岩町自治会館	報告者名
	所在地	静岡市葵区大岩町 1-20	
参加人員・対象者	参加人員	55名	参加対象者 教職員
講演会テーマ	知的障害教育の育成をめざす資質・能力と評価のあり方		
講師名	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 神山 努氏		
講演内容 (1500字程度)	会場内写真等		
<p>御講演の主な内容は以下の通りである。</p> <p>1 育成を目指す資質・能力 今回の学習指導要領では、「何ができるようになるか」という観点で、育成を目指す資質・能力が整理された。「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が育成を目指す資質・能力の3つの柱である。新学習指導要領における各教科等の目標は、上記の3観点到に沿う形で示され、これまでよりも細かく分けて記述されている。</p> <p>2 主体的・対話的で深い学び 今回の改訂においては、知識の理解の質を高めることが重視されている。習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したりすることなどに向かう「深い学び」が実現できているかという視点をもつことが必要である。</p> <p>3 学習評価 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通して、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、学習評価は重要な役割を担っている。観点別学習状況評価を取り入れることで、知識・技能面に偏らず、網羅的に授業を考えることができる。また、評価規準は具体的な行動で捉えることが重要であり、個々に作成していくことが理想である。</p> <p>4 授業改善 P(計画)D(実施)C(評価)A(再検討)サイクルでの授業づくりを意識することが大切である。子どもが上手く学べていない場合に授業を検討することが多いが、子どもが適切に学んでいるときにも注目していく。手立ての改善の視点として、指導内容・活動設定、環境設定、教材、発問や言葉掛けの観点から整理すると改善点を見出しやすい。</p>	 		
	成果及び特記事項等(500字程度)		
	<p>学習指導要領の改訂のポイントを端的に分かりやすくお話しいただいた。今回の御講演を聞いて、改めて児童生徒の「学びの質」が重視されているのだと実感した。学びの質を高めるために、3観点到に沿った目標を立てること、そして日々、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けPDCA サイクルでの授業づくりをしていくことが重要だと再認識する機会となった。講演会後のアンケートからも、「学習指導要領の改訂のポイントがわかり、育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づいて授業づくりをしていきたい。」「講演会で行ったワークシートを使って授業づくりをしていきたい。」との意見が多く挙がった。本講演会に参加していただいた幅広い教育関係機関の方々にとって、授業づくりについて学びの多い講演会となったと言えるだろう。</p>		